



はつ た まさ とし
八 太 正 年

じ ゆう みん しゅ とう し き だん
自由民主党市議団

i P S細胞で治療ができる医療機関を津市へ

問 先日、i P S細胞を使って脊髄損傷患者を治療する臨床研究計画が、厚労省で了承された。津市には市立病院はないが、三重大学医学部附属病院や久居の三重中央医療センターがある。この研究が日の目を見れば、脊髄損傷患者の受け入れが可能な医療機関を各県に1カ所置くと聞いており、津市へ設置することについて、行政の努力が求められるが、市長の考えは。

今後の情報を十分に把握しながら取り組む

答 極めて先進的な研究であり、研究が進んで、脊髄損傷患者が元気になるのであれば、素晴らしいことだと思っている。当該研究の成果が出て、将来、このような先進的な医療を津市内で担うとすれば、議員が挙げた2つの医療機関が想定される。議員が言うように、各県に1カ所という動きになってくるといような見通しなのであれば、三重県内で、どの医療機関がふさわしいのかという議論を県とも十分に行い、津市内の医療機関で展開できるよう、今後の情報を十分に把握しながら取り組んでいく。

●その他の質疑・質問●

○道路整備計画で優先度ランクAとなっている久居戸山町垂水線については、合併特例事業債を活用して1日も早い整備を
○津市の人口減少を少しでも食い止めるため、雇用の創出を



▲ i P S細胞を使った治療ができる医療機関を津のまちに



さか い だ しげる
坂井田 茂

いっ しん かい
一 津 会

教員支援員の配置拡大による支援策の充実を

問 2019年度の施政方針には、未来を担い築く子どもたちのための施策の一つとして「教員支援員制度をさらに拡充する」とあるが、2018年度における教員支援員配置による効果に関して、検証結果を伺う。また、地域格差が生じないように小規模校を含めた全小中学校への配置および公募による教員支援員の確保と活用を早期に実現すべきであると考え、見解を求める。

配置校を増やし、効果的な活用を検討する

答 各学校での教員へのアンケート結果によると、ほとんどの教員が教員支援員に業務を依頼しており、「児童・生徒と直接関わる時間が取りやすくなった」など効果があると解釈できる回答が70%から80%を占めていることから、子どもと向き合う時間の確保に効果があったととらえている。2019年度は、大規模な小学校への増員配置を行うほか、1人の教員支援員が複数校に勤務するなどして、現在の4校から11校に配置する予定である。2020年度以降については、検証結果を踏まえ、効果的な活用や公募などについて、総合教育会議で協議、教育委員会と協議をしていく。

●その他の質疑・質問●

○教育委員会と三重弁護士会のスクールサポート連携協定について
○2020年度から完全実施される小学校の外国語教育と外国語活動の充実について
●各学校への具体的な支援策は
●小学校の英語教育の導入と教員の業務に関して
○外国人労働者受け入れ拡大に伴う体制について など



▲小学校で活躍中の教員支援員。早期に全小中学校への配置を